

江別市における児童の体力向上に関する研究（第18報）A小学校における「朝の運動遊び」でのジュニアリーダー育成の手順と課題？

著者	大宮 真一，石井 由依，竹田 唯史，近藤 雄一郎，増山 尚美，晴山 紫恵子，山本 公輔
雑誌名	北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要
巻	9
ページ	79-89
発行年	2018
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00002685/

江別市における児童の体力向上に関する研究（第18報）

—A小学校における「朝の運動遊び」での ジュニアリーダー育成の手順と課題②—

Studies on Improvement of Physical Fitness at Elementary Students in Ebetsu City 18
— Step and Challenge of Jr. Leader's Rearing on Practice of Morning Exercise
at A Elementary School 2 —

大 宮 真 一 ¹⁾	石 井 由 依 ²⁾
Shin-ichi OMIYA	Yui ISHII
竹 田 唯 史 ¹⁾	雄 一 郎 ³⁾
Tadashi TAKEDA	KONDO Naomi MASHIYAMA
近 藤 雄 一 郎 ³⁾	増 山 尚 美 ¹⁾
Yuichiro	
晴 山 紫 恵 子 ⁴⁾	山 本 公 輔 ⁵⁾
Shieko HAREYAMA	Kosuke YAMAMOTO

はじめに

本研究は、平成21年度に開始された江別市教育委員会と本学北方圏生涯スポーツ研究センターとの連携による児童の体力向上を目的に江別市立A小学校を対象として継続的に実践し、平成29年度で9年目となった。平成25年度から低学年児童の運動遊びをサポートする上級学年児童の社会性を育むことや、低学年児童が上級学年児童の運動する姿や指導姿勢に対して憧れることで生まれる自己効力感の高まりによる社会性の向上の目的を付加して、小学校4年生から6年生で構成されるジュニアリーダー（以下、Jr.L）と1年生との異学年交流での「朝の運動遊び」を継続する

こととなった。これまでの研究事業の内容については本学研究紀要等^{1~16)}に報告し、年度ごとに次年度の課題を設定している。平成27年度の実践^{12, 13)}では、今後児童たちの集団の中で運動遊びが伝承されていくことを期待し、教員や大学生指導者の指示的指導体制を弱めながら、Jr.Lが1年生に運動遊びの指導を行った。Jr.Lは実践の回数が進むにつれて、全員が指導経験をする中、複数回指導したいと申し出る積極的な様子がみられ、リーダーとしての意識が芽生えてきたことを報告した。このことは、上級学年児童の運動遊びの指導によって低学年児童へ運動遊びの楽しさが伝承され子ども集団内の活動によって体力や運動能力が高まっていく環境となってきた

1) 北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科

2) 北海道大学大学院教育学院研究生

3) 北翔大学非常勤講師

4) 北方圏生涯スポーツ研究センター

5) 札幌運動教育研究センター

ていることを意味するものであると考えられる。その中で平成28年度への課題について、1) Jr.Lを育てるためのマニュアルの作成、2) いじめや怪我などのリスクから子どもの集団を見守る人的サービスの提供の2つを挙げている。また、今日の少子化やいじめ等の社会問題を考える時、子ども主体に考える「異年齢児童の集団で成立する運動遊びの環境づくり」は途上段階であると報告している。このことから、Jr.Lが主体的となって運動遊び内容を決定し、実践回数が少なかったことから多くの指導場面を増やして子ども集団のコミュニティで遊びが展開される段階へと移行し、大学生指導者がその様子を見守りつつ一緒に運動遊びを実践しながらサポートしていくことが課題であるとしている。

以上のことから、平成29年度はJr.Lが主体となり子ども集団で運動遊び内容を決定して実践回数を前年度より増加させ、そこから導き出されるJr.Lの育成における手順とその課題について、Jr.Lからの実践後のアンケート調査および実践事例から報告することを目的とした。

研究方法

1. 対象

江別市内のA小学校を対象とし、4年生から6年生の22名がJr.Lを希望して参加した。このJr.Lを平成26年度4年生の時から3年連続Jr.Lを担当した今年度6年生が5名含まれている。

今年度のJr.Lが指導する対象となった1年生は29名であった。

2. Jr.L育成の実践形態

対象の児童に対し、平成29年4月25日～12

月5日までの期間の火曜日と金曜日において計27回、午前8時00分～20分までの20分間の実践を行った。実践内容の詳細は、竹田ら¹⁷⁾が報告している。

平成29年度における27回の実践において、3回を1クールとして、計9クールが展開された。第1～2クールにおいては、1回目が大学指導者の考案した運動遊びを紹介しJr.Lとともに実践して全力で遊ぶ日、2回目が1年生へ指導するための運動遊びの遊び方についてJr.Lが意見を出し合って検討するJr.L会議の日、そして3回目がJr.Lが1年生を指導する日とした。今年度においては昨年度の課題¹⁶⁾のJr.L主体とした遊びを作る場面を増やすことを挙げていたことから第3クール以降は、1回目からメイン指導を行うJr.Lが運動遊びを考案・実践し、実践後に1年生と実施可能な内容であるか、運動量や説明にかかる時間などを反省して内容を改善するための会議をし、2回目に再度実践および打ち合わせ、そして3回目に1年生と運動するような流れとした。

3. Jr.Lにおける1年生への指導体制づくり

今年度は昨年度に引き続き、1年生に対してメイン指導を行いたいJr.Lが自主的に担当してもらうようにし、その1回のメインリーダー人数は制限しなかった。1回のメイン指導の人数は結果的に2～4名であった。初回到Jr.Lの任命証⁹⁾を授与する任命式を実施し、今年度における実践のねらいを説明した。

Jr.L会議の日の最後および第3クール以後は3回目の1年生への指導終了後に、次回に1年生を指導するペアには輝きカードに指導の要領やメモが自由に書き込めるカードを配布した。指導日には持参して、それをもとに

1年生と他のJr.Lとの運動遊びをリードする役割を果たした。また、Jr.Lの主體的な運動遊びの展開や説明の内容についての意見はできるだけ尊重するよう心がけた。

4. 実践後におけるJr.Lへのアンケート

12月の最終回にJr.Lへ今年度の実践に対するアンケートを配布し、その質問項目から調査を行った。質問内容は、図1に示し、その集計結果を表2に示した。

結果および考察

今年度のJr.Lはメイン指導を行った学年は4年生が多かった。アンケート調査から過去を含めて今年度で3回目という6年生は5名であったが、2015および2016年度当時に5、6年生であった上級学年の児童の様子を見ている学年であった。しかし積極的なリードは見られなかったが、Jr.L会議で積極的に意見を出し、4、5年生はサポートするような姿勢が見ることができた。

1. 実践後のアンケート調査から

1)「ジュニアリーダーで意見を出し合って考えた運動について楽しかったものはなんですか？」から

この質問内容から多くの回答を得られたのは、コロコロリレーや障害物リレーといった“リレー”と名のつく遊びがのべ12件挙げられていた。このことからJr.Lが1年生に指導したり関わったりする体験にはリレーのイメージが強いものと考えられる。一方、リレーでの遊びの内容を振り返ると、リーダーと1年生との混合チームを4組作ったとすると1チームあたり10人となる。その10人を1人ずつ継走していくと、走っている人を除く9名

は応援のみで運動をしていない時間となる。このことを第7クールで行った「コロコロリレー」では、この名がそのまま採用されてしまったが実際にはリレーではなく、約50人の児童それぞれが常に運動し続けるサーキット形式の遊びへと変化した(図2)。図2の下段の様子へと行きついた経緯として、11/10の実践後のJr.L会議において、大学生からの一意見として、「リレーは走る人以外はずっと待っていないてはならないし、1年生と混合だったら終わるまで運動できないよね。1年生・リーダーともに20分間ずっと楽しくするためにはどのようにするとよいか?」、 「リレーでない遊び方でも同じ内容を楽しむことができるかもしれない」、などJr.Lに遊びについて考えさせる発問も行った。結果として、全9クールの中では、最も運動量があり、児童たちが活発にそして夢中に遊んでいたことが伺えた。このことから、このような体験を通して、Jr.Lが工夫して運動遊びを考案し、実践した結果、リーダーも1年生も楽しかったという評価が得ることができれば、指導場面での成功体験を得たと考えることができる。しかし、本研究では、運動時間、運動量、運動の楽しさ、説明の仕方などが全てスムーズに行くなどのトータルで運動プログラム作成を意識できる段階にはさらなる経験が不可欠であり、さらなる指導場面での成功体験を増やしていくことが必要であると考えられる。

2)「1年生に運動の遊びかたを教えるなど、どのくらいかわかることができましたか? 1年生とかかわって自信がついたことを書いてください」から、

全てのJr.Lが1年生と「たくさんかわれ

表1 アンケート集計結果

1. ジュニアリーダーで意見を出し合って考えた運動について楽しかったものはなんですか？

回答	学年
・色々なあそびが楽しくて心に残りました	6
・走る運動や跳ぶ運動	6
・障害物競走, リレー	6
・最後にやったボール遊び	6
・ボール	6
・4年生女子が提案した遊びが特に楽しかったですが、意見を出し合えたので全部楽しかったです	6
・障害物競走	5
・自分が考えたボールを使ったジャンプ鬼が楽しかった。	5
・ボール運動	5
・魚鬼	5
・ボール鬼, 障害物リレー	5
・回りおに	5
・リレー	5
・まわりおに	5
・コロコロリレー, 障害物リレー	4
・回りおに, 障害物リレー	4
・ボールを投げるやつ, 障害物リレー	4
・回りおに, 障害物リレー	4
・障害物競争です。	4
・コロコロリレー, 障害物リレー	4
・コロコロリレー	4
・まわりおに, 障害物リレー	4

2. 1年生に運動の遊びかたを教えるなど、どのくらいかわることができましたか？

	4年生	5年生	6年生
①たくさんかかわれた	4	3	4
②すこしだけかかわれた	3	4	2
③あまりかかわれなかった	0	0	0
回答なし		1	1

1年生とかかわって自信がついたことを書いてください

回答	学年	上記回答
・みんなが楽しめるように意見を出せるようになった。	6	①
回答無	6	回答無
・下の人としゃべりやすくなった	6	①
・低学年に話しかけること	6	②
・高学年としての意識が高まった	6	②
・やさしく接する事	6	①
・1年生とあそべるようになった	5	①
・自分の考えを言えるようになった	5	②
・1年生ととても仲良くなれた	5	②
・はっきりとしゃべる	5	②
・そうじの時間で低学年を教えることができるようになった	5	②
・だれかに自分の意見をはなしたり、自分で話をまとめること	5	回答無
・発表すること	5	①
・自信を持って大きな声で話たりせしたりできた。	5	①
・ゲームをいろいろ考えることができた。	4	①
・1年生と遊んでも楽しいこと	4	①
・説明が上手になった	4	①
回答無	4	①
・1年生と、前より仲良くなれた	4	②
・？	4	①
・みんなの前で話すのがちょっと好きになった！1年生と遊ぶのが楽しい！	4	②
・1年生と仲よくなれた	4	②

3. ジュニアリーダーとして、よくできたところ、うまくできなかったことは何ですか？

よくできたところ	うまくできなかったところ	学年
・1年生がわかるように説明できたこと。1年生が楽しめるように意見をだせたこと。	・自分が楽しんでいて、1年生にぶつかりそうになったこと	6
・しっかりと動いて、体力を高められた	・ジュニアリーダーなのに友達と喋っていた。	6
・前でせつめいできたこと	・前でせつめいしているときによういをできなかったこと	6
・説明する時の声の大きさやあいさつ	・すばやくうごくこと	6
・あいさつやリーダーとしてのしごとをしっかりとできた。	・朝はやくきてみんなと準備することができなかった	6
・みんなの前で説明できた。	・説明に時間がかかることがあった。	6
・説明をちゃんとできた。ルールを教えてあげれた	・言い方がちょっときつかった	5
・楽しくできたこと。	・前にはずかしくてでれなかった	5
・意見を多く出せた	・あそびを考える人にあまり立候補しなかったこと	5
・低学年の面倒をみた	・ふざけたりしたこと	5
・1年生と楽しく遊べたこと	・1回だけ時間に遅れたこと	5
・すすんで手をあげられたところ。	・1年生をまとめる事。	5
・大きな声で話せたり、ルールをわかりやすく教えること。	・特になし	5
・1年生も楽しむことができた。	・説明がでかんじゃったところ。	4
・楽しく遊べたこと	・説明がうまくできなかったこと	4
・ゲームをつくって楽しんでもらうことができた。	・あまり運動をできないゲームがあったこと	4
・とくにないです	・とくにないです	4
・1年生に遊びを教えることができた。	・意見をあまりだせなかった	4
・おしえること	・発表	4
・一番最初に手を挙げてリーダーをできたこと!!	・うまく1年生に伝えられなかった(-_-)	4
・遊びをしっかりと考えられた	・意見をあまりだせなかった	4

4. 来年もジュニアリーダーとして参加したいですか？（4, 5年生）

	4年生	5年生
①したい	1	8
②したくない	7	0

5. ジュニアリーダーをこれまでに何年間行いましたか？（6年生対象）

	人数
3年間	5
2年間	1
1年間	0

これから中学校へ進学することになります、ジュニアリーダーの経験はどんなことで活かせると思いますか？

・自分でできかくを考える事や人にやさしく説明する事などの力がつき中学校でもれらの事は活かせると思います。朝運動に関わってきた方がた、大学生のみなさん、やさしく接してくださりありがとうございました。
・体育の授業や部活に活かせると思います！
・ジュニアリーダーでしゃべるきかひが多くなったので中学校にもいかしていききたい。
・人と人とのかわり
・体力の向上
・中学校でイベントがあった時、みんなが楽しめるように考えること



図2 第7クールでのJr.Lの活動の様子

上段 11/7 4年生のJr.Lが考案したコロコロリレー（説明と実践）

中段 11/10 前回の反省をもとに意見を集め、実践、そして再度反省

下段 11/14 1年生を加えて遊び実践（リレーではなく、全員でサーキット遊び）

た」および「すこしだけかわれた」と回答した。この体験から自信がついた内容として多く挙げたのは、「1年生と話すことができるようになった、仲良くなれた」と読み取れる内容が9件、「みんなの前で話すことができるようになった、意見を出せるようになった」と読み取れる内容が8件であった。これらのことから、4月当初では1年生との関わりに不安や緊張を抱えていたがそれが解消されたこと、さらに大勢の児童の前で説明したり、上級生や下級生に対して意見を述べる機会が増えたことで、友達同士以外での異学年交流の中でコミュニケーション能力が高まったことを意味するものと考えられる。したがって、運動の考案・実践を通して自らの成長をJr.L自身が感じ取れる機会となったものと考えられる。

3)「ジュニアリーダーとして、よくできたところ、うまくできなかったことは何ですか？」から

先述の2)と関連する部分であるが、「うまくできたところ」として特に多く挙げたのは、「説明できた、教えることができた」という内容の記述がのべ8件、「楽しく遊ぶことができた」という記述はのべ6件であった。このことはJr.Lの満足度している点として、人前で話すことに慣れたこと、運動量は多くないがこの取り組み自体が楽しい、ということが理解できる。さらに、Jr.Lが的確にわかりやすく運動遊びの説明が行えて、運動する目的も明確にした上でたくさん運動する時間を確保できたことに満足する意識にまで高めることが必要であると考えられる。

一方、「うまくできなかった」回答には、個人が感じた内容が多種多様であった。特に

キーワードとしては、「説明」、「意見が出せなかった」、「恥ずかしさ」を挙げ、これらを関連付けると本研究でメイン指導者をやりたいとして手を挙げたJr.Lに偏りがあり一度もメインを行っていない児童も半数以上いた。このような感想を述べている児童も少なくはないので、その気持ちを克服するような手立ても必要であると考えられる。

4)「来年もジュニアリーダーとして参加したいですか？(4,5年生対象)」から

5年生は全員参加したいとの回答であったが、4年生は1名を除き7名がしたくないという回答であった。4年生においては、今年度始まった当初から4年生が積極的にメインでの指導者を立候補して遊びを考えていたが、Jr.L会議でルールや遊び方の説明が他のリーダーへ伝わりにくいといった場面が多々あったこと、5,6年生のリーダーを前にして意見をもらうことでの緊張感、1年生との取り組みの中で50人へ運動してもらうように説明したり手本を示したりしても結果としてリーダーが思う遊びの様子にならなかったことが理由として推測される。一方で、先述した2)および3)において自信がついたことやよくできたこと、うまくできなかったことなどの反省できている感想や考えを持ちながら、また実践してみたいという気持ちとはギャップがあることも明らかとなった。

また、この4年生と5年生との回答の違いについて、以下のことも推測される。今年度の5年生が4年前の2013年度に1年生であった当時初めてJr.L制度が導入され、年間33回の朝運動の遊び¹⁰⁾を全て参加していた学年であった。そのため、朝運動で大学生、当時のJr.Lからも遊んだイメージが強かったのかも

しれない。一方、今年度の4年生が3年前の2014年度においては、年間32回の朝運動の遊びのうち、約半分の17回の参加に留まっている。残りの15回はJr.Lが大学生が考えてきた遊びを体験し、メインのリーダーを決定し、次に来る1年生との遊びを説明できるようにしたり、遊び方の流れをつかむといったリーダー育成に充てられていた¹²⁾。そして、1年生へのアンケートからも朝の運動はほぼ全員からとても楽しかったまたは楽しかったとの回答を得ている。このように、現在の4、5年生が当時1年生の時の運動遊びの経験やリーダーとの交流の仕方の違いがあったことも原因かもしれない。

5)「ジュニアリーダーをこれまでに何年間行いましたか? (6年生対象)、これから中学校へ進学することになりますが、ジュニアリーダーの経験はどんなことに活かせると思いますか?」から

今年度参加した6年生は初めての参加者はおらず、複数年のリーダーを体験している児童たちであった。中学校で活かすことの内容についても、生徒同士の関わり、部活動やイベントで楽しい企画を考えるための基盤づくりやコミュニケーションを取るなど進学先での自らの行動意識などにも影響するのではないかと考えられる。

2. 今後のJr.L育成課題

2014年度にも課題として挙げた「Jr.Lを育てるためのマニュアルの作成」¹¹⁾について、今年度は大学生のサポートを減らし、リーダー主体でなおかつこれまでの2014年度から代々リーダーの実践する姿を下級学年へと継承してきたという前提条件をもとに実践し

てきたが、リーダーがオリジナルで遊びを説明したり、手本を示したり、なおかつ20分以内でそれを達成することは困難であることが一層理解できた。したがって、今後、Jr.Lの育成課題として、3つを挙げることにする。

- ① Jr.Lが、大学生または運動遊びに関する指導者が楽しく運動遊びを提供する指導場面を1年生の立場となって体験する。
- ② 大学生または運動遊びに関する指導者が20分間の実践の中で、説明の内容や話し方、手本の示し方、声の大きさ、1年生に感想を聞いて遊びの評価をすることなど、実践の流れをJr.Lたちに理解してもらう。
- ③ Jr.Lが最初に遊びを考案してきた内容を説明し実践後に、他のリーダーから意見を集め、リーダーと1年生がともに楽しく遊ぶことができるように意見をまとめて、次回の実践内容を提示することを明確にできるようにする。

文 献

- 1) 大宮真一, 竹田唯史, 増山尚美, 晴山紫恵子, 山本公輔: 江別市における子どもの体力向上に関する研究－A小学校の体力・運動能力の現状と身体活動力の調査方法について, 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報, 創刊号, 57-67, 2010.
- 2) 竹田唯史, 大宮真一, 増山尚美, 晴山紫恵子: 江別市における児童の体力向上に関する研究－東広島市内小学校における児童の体力向上の取り組みの視察報告－, 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要, 創刊号, 107-119, 2010.
- 3) 竹田唯史, 大宮真一, 山本公輔, 増山尚

- 美, 晴山紫恵子: 江別市における児童の体力向上に関する研究 (第3報) - A小学校における朝運動プログラムの実践 -, 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要, 第2号, 19-34, 2011.
- 4) 大宮真一, 竹田唯史, 増山尚美, 晴山紫恵子, 山本公輔: 江別市における児童の体力向上に関する研究 (第4報) - 千葉県八千代市内小学校における児童の体育授業の取り組みの視察報告 -, 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要, 第2号, 101-108, 2011
- 5) 大宮真一, 晴山紫恵子, 山本公輔, 竹田唯史, 増山尚美: 江別市における児童の体力向上に関する研究 (第5報) - A小学校における「朝の運動遊び」実践プログラムの紹介 -, 北翔大学短期大学部研究紀要, 第50号, 43-58, 2012.
- 6) 竹田唯史, 大宮真一, 山本公輔, 増山尚美, 晴山紫恵子: 江別市における児童の体力向上に関する研究 (第6報) - A小学校における朝運動プログラムの実践 -, 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要, 第3号, 13-26, 2012.
- 7) 大宮真一, 晴山紫恵子, 山本公輔, 増山尚美, 竹田唯史: 江別市における児童の体力向上に関する研究 (第7報) - A小学校における「朝の運動遊び」実践プログラムの紹介2, 北翔大学短期大学部研究紀要, 第51号, 1-16, 2013.
- 8) 竹田唯史, 大宮真一, 山本公輔, 増山尚美, 晴山紫恵子: 江別市における児童の体力向上に関する研究 (第8報) - A小学校における朝運動プログラムの実践 -, 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀, 第4号, 1-15, 2013.
- 9) 大宮真一, 晴山紫恵子, 石井由依, 増山尚美, 竹田唯史, 山本公輔: 江別市における児童の体力向上に関する研究 (第9報) - A小学校における「朝の運動遊び」の新たな実践プログラム -, 北翔大学短期大学部研究紀要, 第52号, 1-16, 2014.
- 10) 竹田唯史, 増山尚美, 大宮真一, 晴山紫恵子, 山本公輔, 石井由依: 江別市における児童の体力向上に関する研究 (第10報) - A小学校における朝運動プログラムの実践 -, 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要, 第5号, 1-14, 2014.
- 11) 大宮真一, 晴山紫恵子, 石井由依, 増山尚美, 竹田唯史, 山本公輔: 江別市における児童の体力向上に関する研究 (第11報) - A小学校における「朝の運動遊び」の異学年交流実践プログラム -, 北翔大学短期大学部研究紀要, 第53号, 21-36, 2015.
- 12) 竹田唯史, 石井由依, 増山尚美, 大宮真一, 晴山紫恵子, 山本公輔: 江別市における児童の体力向上に関する研究 (第12報) - A小学校における朝運動プログラムの実践 -, 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要, 第6号, 13-27, 2015.
- 13) 大宮真一, 晴山紫恵子, 石井由依, 増山尚美, 竹田唯史, 山本公輔: 江別市における児童の体力向上に関する研究 (第13報) - A小学校における「朝の運動遊び」でのジュニアリーダー育成の試み -, 北翔大学短期大学部研究紀要, 第54号, 13-27, 2016.
- 14) 竹田唯史, 石井由依, 大宮真一, 増山尚美, 晴山紫恵子, 山本公輔: 江別市における児童の体力向上に関する研究 (第14報) - A

小学校における朝運動プログラムの実践と効果検証－，北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要，第7号，1-16，2016.

様のご理解に深謝申し上げます。

- 15) 竹田唯史，石井由依，大宮真一，近藤雄一郎，増山尚美，晴山紫恵子，山本公輔：江別市における児童の体力向上に関する研究（第15報）－A小学校における朝運動プログラムの実践と効果検証－，北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要，第8号，141-155，2017.
- 16) 大宮真一，石井由依，竹田唯史，近藤雄一郎，増山尚美，晴山紫恵子，山本公輔：江別市における児童の体力向上に関する研究（第16報）－A小学校における「朝の運動遊び」でのジュニアリーダー育成の手順と課題①－，北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要，第8号，157-165，2017.
- 17) 竹田唯史，石井由依，大宮真一，近藤雄一郎，増山尚美，晴山紫恵子，山本公輔：江別市における児童の体力向上に関する研究（第17報）－A小学校における朝運動プログラムの実践と効果検証－，北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要，第9号，(印刷中)，2018.

付 記

本研究は，平成28年度江別市教育委員会委託事業補助金の交付を受けて行ったものである。

謝 辞

江別市立文京台小学校校長の三科圭介先生をはじめ，関係各位と対象児童の保護者の皆

